

ることは勿論今一步進めて實に動物靜止の姿態のみならず飛躍、奔走、翱翔、游泳等の有様をも寫し其時に於ける各動物の骨の位置を研究せられんこと實に斯道の爲めに望むべき事ともなり

又五月發児の *Anatomischer Anzeiger* にも亦一圖を掲げたりこは獨國エナ府ブラウス博士人間の手の血管に水銀を注射して之を又光線に曝せしに水銀は此光線を通過せしめざるより細き大き數百の黒條手中を縱横するものにして是は前に比すれば甚だ明瞭なりとす因て案するにエビ、イカ、ウツ、カヘル等の血管へ斯くの如く水銀を注射して寫したらんには頗る有益ならん又動脈管と靜脈管とは又光線通過の度を異にせる物體を注射して一は濃く一は淡くして兩者の間に自ら境界を立て觀るものをして忽ち判知せしむる様にせば其幸福や實に望外ならん然しこは只記者の妄想のみを附記したるなり

●二崎の *Calyconeectae Monophyidae* 科 管狀なる莖の頂上に唯一の運動蟲を有せる多食蟲 *Calyco-*

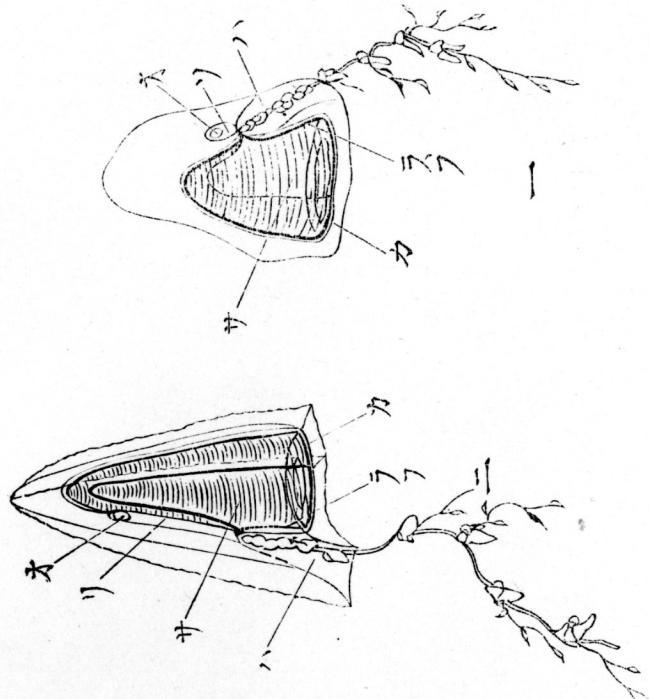
*nectae* にて其小群は食蟲、觸手、葉狀蟲各一箇つゝを具ふ是の科に属するものは其數多からず且つ皆小形のものにて單一の構造を示し唯一の永久運動蟲を有する點に於て最近親の *Diphyidae* より區別さる

*Nectophore* 種々の形を呈し *Diphyidae* の第一運動蟲と同様に構成さる

*Hydroecium* *Monophyes Cymbonectes* の二屬にては其腹側の開放された構にて唯一個の相重りたる翼葉により被るのみなるか *Muggiaea Cymba* にては圓錐形の完全なる腔(二圖ハ)にて *Sphaeronectes* にては圓柱狀の腔をなす(一圖ハ) *Mitrophyes* なる屬のものは是を有せず *Nectosac* 即ち *Subumbrella*(サ)は運動蟲の背部に位し *Hydroecium* は其前にあり *Sphaeronectes Mitrophyes* にては *Nectosac* の位置等ろ運動蟲の底部と云ふべきなり、四箇の放射管は普通左右平等にて腹側にあるもの(ヲ、フ)尤も短し(圖には放射管三本のみを示す他一本は(一)にては左に(二)にては右側にあるべきなり)是等

の放射管は皆 velum の直上に位する環状管(カ)と相合す

Somatocyst(ソ) は中等の大にて莖の頂端より上部に延長す其内部の管は氣胞を有せる内皮の細胞にて充され其



尖端に油滴(オ)を具ふ

Siphosome(莖、小群の總稱なり) 莖は Monophyidae 及び Diphyidae に於けるも同様の構造を有し、小群は規則正しく莖に附著し其數不定なり是れか收縮をなすときには其全體運動蟲の Hydroecium 中に潜入するを得小群は一個の水母體による不生殖水母體、生殖水母體之なり前者は葉狀蟲食蟲觸手よりなり後者は生殖蟲よりなる、生殖蟲の傘は普通水母の構造を有す Siphon 及び Tentacle 其要用なる差異を種々の Monophyidae に於て存せず

Eudoxiae Mitrophyes, Cymbonectes, Monophyes, には小群母體に附著しつゝ充分に生殖素を生熟せしむ其他の諸屬にては小群莖より分離し獨立に游泳せる Eudoxidae 即ち一食蟲 Calyconectae となり生殖素を成熟せしむ發生 Chun 氏は Monophyidae, Diphyidae の發育を精密に研究し常に最初の水母様なる幼蟲の傘は後に第二の形を異にせるものと代りて消失すと云へり同氏の Muggia

*eo kochii* の發育の記載に依れば其小群蓋より分離して *Cucubalus eschschalzii* となり有性生殖をなすが其受胎せし卵より發生する最初の幼蟲の形は *Muggiaeae* の形とは全く相異りたる一の食蟲を具へるものなるか（著者は之れを *Monophyes primodialis* と云へり）其後の生長により食蟲觸手等と運動蟲との間の莖延長し其最初の小群の運動蟲に遠かるに従ひ其間に第二の小群を生じ漸次延長するに當りて一種の芽を莖より出し其の生長するに従ひ *Muggiaeae* の運動蟲の形を表し遂に頂上に存せる元來の運動蟲分離するに至り初めて完全なる多食蟲 *Calyconectae* となるものなり

（K. 上生）

是の故に一回の發育をなすには二度其形態を變化するものなり是の面白き發生の有様に關して既に知られたるの事實は一二の *Monophyidae* 及び *Diphyidae* のみにて總て他の *Calyconectae* に通じて存する現象なるや否やを知らんには尙多くの研究を要すべきなり

*Monophyidae* 諸屬の區別

### 第一亞科 Sphaeroneclidae

運動蟲半球狀或は僧帽狀にて全面平滑一の角緣を有せず

*Monophyes*

運動蟲の腹部に位せる *Hydroecium* は一の溝にして相重れる二個の翼葉にて被はる

*Sphaeronectes*

*Hydroecium* は完全なる圓柱狀の管にして運動蟲の腹壁にあり其底部に外界と相通する孔を有す

*Nitrophyes*

*Hydroecium* を缺く運動蟲は帽の如き被葉を有す

### 第二亞科 Cymbonectidae

運動蟲方錐狀にして五個の秀たる角緣を有す

甲 *Cymbonectes*

*Hydroecium* は運動蟲の腹方にありて二個の相重れる翼葉にて被れたる溝なり葉狀蟲の形は佛像狀なり

乙 *Hydroecium*

は完全なる圓錐形又は鐘形の腔に

て運動蟲の腹壁中に入り

*Muggiaeae* 小群の葉狀蟲圓錐形又は佛像狀にて  
其腹方に深き切目あり

*Cymba* 小群の葉狀蟲四角形にて六個の方面  
と底部に一個の腔を有す

圖解(一)は *Sphaeronectes* の一種なるべし三崎に可なり  
多し大は豌豆程にて其組織甚た柔軟にて破損し易く從て  
死易し(二)は *Muggiaeae* の一種なり年中三崎にては多漁  
なり五み、めに達するものは大なるものゝ中なり Mono-  
phyidae に屬するものにて生の三崎にて得たるは以上の  
二種のみ

● Syzygy なる語に就て 海百合の類を記載する  
に當て此語屢々用ひるゝか其意一定せずして往々誤りを  
來すとあり英國博物館の F. A. Bather 氏之れを憂ひ左の  
論議を提出されたり

第一、 “Syzygy” なる語は凡て本來の定義即 “An im-  
moveable suture union” を用ひへし

第二 “Joint” なる語は本來の意即ち “Gelenk” に用  
ゆへし決して第二の意味なる “Glied” に用ゆべか  
らず

第三 “Glied” は凡て小骨片一つ一つを數ふべし(其  
位置の Brachial 又は Columnal に關せず)

第四 二骨片若し Syzygy にて連結されたる場合には  
之れを Syzygial pair 又は單に pair と云ふべし

第五 骨片の數を數へ小枝の位置を記載する時には各  
骨片を以て單位とすべし其骨片の他の骨片に連結せ  
らるゝ有様には關せざるなり故に “Antedon rosacea”  
の小枝は II. Br <sub>2, 4, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15</sub> にありて II. Br <sub>1, 3,</sub>  
<sub>9, 14</sub> にあらず

第六 Syzygy の位置を記載するには關節を以て單位  
とすべし即ち *Antedon rosacea* にては第二第九及び第十  
四關節に Syzygy ありと云ふべし他語にて云へば第  
二第四間節の間、第九第十の間節の間第十四第十五  
間節の間に Syzygy ありと云ふなり

以上 B 氏の考案なるが氏は Syzygy は他の關節と同一のものなりと古生物學上の研究より論ぜられ各骨片を以て關節の單位とせらるゝ事其要點なり從來は Syzygy は他の關節ほど縫線著しからざるを以て其上下の兩骨片を一關節と見做したり本號掲載の海百合の記載も亦從來の慣例に従ひたるものにして此案には従をさりしなり然れども兎に角一定の約束に従て用語を一定することは目下極めて必要なる事なれば B 氏の提出されたる論議の如き誠に喜ばしき事なり  
(は、じ)

●石灰海綿分類一覽 石灰海綿の分類諸系統最新らしきは Lendenfeld 氏の式なり該式は Adria 海の海綿を記されたる論文に用られたるものにして最も簡単なるを以て讀者諸君の御参考までに左に總合して掲載せん主とするところは第一次分類の基礎として體壁上有纖毛細胞の分布の状態を探り第二次分類の基礎としては管系統の状態に依り第三次分類の基礎としては骨骼を探りしなり

- (一) (イ) 其纖毛細胞を以て被はれたる腔は不規則か又は全内腔壁は凡て該細胞にて被はる ..... 1. Ordo Homocoela(一一)
  - (ロ) 扁平表皮を以て被はれたる管の部と多少一定の形と大きさを有する纖毛室を有す ..... 2. Ordo Heterocoela(八)
- (二) (イ) 内外壁の間の層は薄ふして連續せる内腔と平滑なる内腔壁を有す ..... 1. Familia Asconidae(二二)
  - (ロ) 連續せる内腔を有し其壁は囊状の凹入を生じ又外より水の流入する管此處に開く ..... 2. Familia Homodermidae(四)
- (ハ) 内腔壁は平滑なれども内腔は不規則に分る、中間層は厚きが故に ..... 3. Familia Leucopsidae (七)
- (三) (イ) 三放射針のみか又は四放射針のみか或は両方共に有す ..... 1. Genus Ascetta
  - (ロ) 放射針及棒狀針或は四放射針及棒狀針或は三放射針四放射針及び棒狀針を有す ..... 2. Genus Ascandra
- (ハ) 棒狀針のみ ..... 3. Genus Ascyssa